



大規模火災のあった朝市通り近くで亡くなった友人の自宅跡を訪れた女性。故人が好きだったチューリップの花束を供え、手を合わせた。11日午前11時29分、石川県輪島市河井町で(野村和宏撮影)

もう一度会いたい

能登半島地震1年

各地で追悼

能登半島地震から1年となった1日、被害の大きかった石川県能登地方の各地で犠牲者への祈りがささげられた。大規模な火災に遭った輪島市の朝市通り近くでは、亡くなった友人の自宅跡を女性(68)が地震後初めて訪れた。「現実を信じたくなくて、ずっと来られていなかった。もう1回だけ会いたい」と涙を流し、花束を手向けた。

地震では石川、富山、新潟の3県で計504人が亡くなり、2人の行方が分かっていない。住宅被害は15万棟を超え、昨年9月の記録的な豪雨で16人が犠牲に。地震と豪雨を合わせ、今なお避難所などに約250人が身を寄せ、多くの人が仮設住宅で暮らす。被災者の生活再建に向けた支援が急務となっている。

全国から希望の灯 町野



「生きる」などのメッセージが書かれた紙灯笼
＝1日午前0時21分、石川県輪島市町野町で

石川県輪島市町野町の仮設住宅団地近くでは12月31日深夜から元日未明にかけ、約千個の紙灯笼に灯がともされ「1・1・NOTO」の文字が浮かび上がった。被災者ら約30人が集まり、年越しの瞬間に合わせ、黙とうした。

紙灯笼には、一つ一つに被災者らの復興への思いが記された。「生きる」「心を合わせて」「能登を忘れない」。メッセージは福島や広島など全国の被災地からも届けられた。火は阪神大震災の犠牲者を追悼する神戸市内のガス灯「希望の灯り」から分灯された。

紙灯笼は地元有志の団体「町野復興プロジェクト実行委員会」が地震の月命日の毎月1日、ともし続けてきた。近くの自宅が全壊し、仮設住宅で暮らす高野律子さん44は「人は減るかもしれないけど、(地元出身者が)安心して帰ってきてもらえる町になれば」とつぶやいた。

仮設住宅で行われた餅つきを楽しむ子どもたち＝
1日午前10時28分、石川県輪島市マリンタウンで



みんなで「よいしょー」輪島の仮設

石川県輪島市マリンタウンの仮設住宅で1日朝、餅つきがあった。大人と子どもが「よいしょー」というかけ声に合わせ、きねを振った。

1977年度生まれの輪島出身者でつくるグループ「チム輪島人」が約300人分の餅を用意し、被災者らに振る舞った。仮設住宅近くの河井町に住むひろみさん(77)は「家では用意できないので、ありがたい。今年は安心して暮らせる年になってほしい」とほほ笑んだ。

輪島人の田中拓也さん(47)は「地震が起きた当日に餅をついて、厄を払いたい気持ちがあった。地域の人たちが元気になれば」と願った。

輪島で県追悼式 首相、遺族ら445人

能登半島地震と昨年9月の豪雨災害の犠牲者をしのぶ石川県主催の追悼式が1日、輪島市内で開かれた。馳浩知事をはじめ、石破茂首相、岸田文雄前首相ら来賓、遺族の445人が出席。地震発生午後4時10分に黙とうをさげた。

式辞で馳知事は「復旧・復興への道のりは決して容易ではないが、復興の先に

ある『新たな能登の未来』を築く強い決意を新たに、全力を傾注し、復興への道を切り開いていく」とあいさつ。石破首相は早期の復興や災害対策の強化を表明

し「防災庁の設置などに取り組み、世界一の防災大国にすると固く約束する」と強調した。

穴水町で1890年創業の老舗衣料品店を営み、地

震で先代の父洋一さん(当時82)を亡くした小林由紀子さん(53)は、遺族代表

であいさつに立ち「突然の出来事に悲しみ、絶望感に打ちひしがれた」と声を詰まらせた。父が守り続けた店を失った現実が心折れそうになったが、地域住民の温かい言葉に支えられ、昨年10月、町内の仮設商店街で営業を再開。「半歩ずつ



能登地方の年越しの様子はQRコードから動画

進む 半歩ずつでも



能登半島地震と豪雨災害の追悼式で黙とうする出席者＝1日午後4時10分、石川県輪島市で

初日の出 故郷の友と

初日の出を見に見附島を訪れた名古屋市の専門学校生の谷口遙さん(19)は、地元の飯田高校を昨年春に卒業後、全国に散らばった同級生3人と初めて集まった。「地震の後には地元へ帰るのも少し怖かった。今年は笑って過ごせる1年になるといいな」＝1日午前7時50分、石川県珠洲市宝立町で



倒壊した自宅から助け出されたが、背骨などを圧迫されていって亡くなった。妻の利さん(当時87)も1月6日、老衰で後を追うように他界した。百合さんは瓦ぶき職人で、頑固で我慢強い性格。写真が趣味で家族写真をよく撮っていた。長男の広さん(66)は「子どものころにキャッチボールをしてくれたことは、なぜかずっと覚えている」としみじみと振り返った。



堀百合さん(90)

自宅1階でテレビを見ていて地震に遭い、家屋倒壊で亡くなった。隣の物置部屋に逃げた助かった妻和子さん(72)は50年前に「恋愛結婚」で結ばれたという夫を「まじめでやさしくていい人だった。残念でならない」としのび、「一緒にずっとおりたかった。もっとやさしくしてあげればよかった」と悔いた。



堀木正吉さん(75)

宝湯「の倒壊で犠牲。4代目の橋元宗太郎さん(41)は「先代も知っている常識。温かく見守ってくれる人」と話す。祭りや風呂好き。孫の女性は「近所の草刈りを手伝うやさしい人」としのぶ。

珠洲市

元日の夕方に起きた大きな揺れは、あなたの未来を奪った。あれから1年。あなたを思う。(順不同、市町は居住地による。写真は遺族の提供)

橋本政則さん(85)

倒壊した自宅の柱の下敷きとなりになった。職人かたぎで厳格だったが、孫をかわいがっていた。休日には妻の春子さん(84)と所有する山に出かけていた。長男の松男さん(61)は「知恵があつてなんでもできる人だった。いたら口うるさいけど、いらないと困ることもある。山の管理なども少し教えてほしい」と語った。



谷内田幸三さん(65)

珠洲市玉立町柏原の避難所で1月、急逝した。暖房で暖まった避難所から屋外の仮設トイレに向かう際、寒暖差で体調が急変した可能性がある。地域の区長で、人情味ある人柄。妻の玲子さん(65)は「優しい人だった」と涙ぐんだ。



山根敏枝さん(73)

自宅の倒壊に巻き込まれて亡くなった。市内に住むこの平部えい子さん(80)は、一緒にドライブに出かけたり、家を訪ねて野菜などをお裾分けしたりしたとのぶ。「優しい子。私が病気の時期は、清掃の仕事を代わってくれた」



「草刈り手伝うやさしい人」「いつもにこにこしていた」

前田進さん(74)

隣人宅へ新年のあいさつに向かった際に家屋倒壊に巻き込まれた。妻のしげ子さん(72)は「頭のいい人で何でもできるし、船とかも自分で直していた。たった30分前に出て行って、こんなことになるなんて」と悔やむ。地震から1年を前に「ようやく遺影に手を合わせられるようになった」と話す。



茨山美智子さん(96)

自宅の下敷きになり、自室の近くで倒れているのが見つかった。息子の勉さん(71)によると、美智子さんは畑仕事を頑張る、収穫した大根やニンジンをお裾分けに配って回るのが好きだった。勉さんは「過ぎたことを考えても落ち込むだけ。(母には)何とか生活できていたよと伝えたい」と話した。



倉指雄二さん(85)

自宅の倒壊で犠牲になった。孫とひ孫をかわいがり、5冊の写真アルバムを友人に自慢していた。元日は金沢市から孫が遊びに来ていた。次女の和子さん(55)は「いつもにこにこしていた。年末に『孫に会ってから散髪に連れて行って』と頼まれた。みんなに会えてよかった」と話した。



富田厚子さん(76)

地震で家屋の下敷きになり、1月2日に近所の住民や親戚、娘の幸恵さんに救助され、病院に搬送されたが、その日の夜に亡くなった。幸恵さんは「極寒の中、寝ないようにして救助を待つという時も、病院に搬送されてからも、生きることをあきらめた瞬間がないのではありませんか、という様子でした。救助の方々と、自分の家族も下敷きになっているのに夜中も朝も何度か母に声をかけに来てくれた方々、ありがたうございました。すこ元気がでて、救助されるまで頑張っていました」と話す。



兵頭淳輔さん(81)

自宅のベッドに横になっていた落下した梁に足を挟まれ、犠牲になった。亡くなる直前も、無事だった妻恵子さん(75)に「大丈夫か」と声をかけ、妻の身を心配していた。長男の寛之さん(52)は「よく頑張った」と悼んだ。

山内孝子さん(71)

地震で足を骨折したが、病院になかなか行けなかった。入院翌日、エコノミークラス症候群で亡くなった。温厚で明るく、おしゃべり。食事を家族を笑顔で眺めていた。韓国ドラマ観賞が好きで、韓国に行きたいと話していた。長男の直人さん(44)は「学生時代、夜遅くまで勉強していると夜食を用意してくれた」と振り返った。



「こだわりの塩 おいしかった」「朗らかでテキパキ動く」

灰庭貴子さん(64)

能登半島をめぐる観光バスガイドとして働いたり、旅館に勤めたりしていた。2009年に夫の孝成さんを亡くし、愛猫と暮らしていた。周りからは「朗らかな性格でテキパキと動く人」と慕われていた。



田保一夫さん(67)

地震で自宅の裏山が崩れ、土砂崩れに巻き込まれた。消防などの捜索で1月22日に見つかった。妻のまき子さん(64)は「捜索してくれた多くの人に感謝を伝えたい」と話す。建具職人として働き、優しくまじめ、地域の人に頼られる存在だった。まき子さんは「これから2人で米や野菜を作って穏やかに過ごすはずだったのに」と涙を流した。



坂下三子さん(93)

自宅の下敷きになり124時間後に救出された。会話が出来るまでに回復したが2月8日、金沢市内の病院で亡くなった。三男の充男さん(60)は「亡くなる前にいろいろな人と話せてよかった。頑張り屋さんだった」と話した。



船本栄子さん(94)

2人で暮らす自宅の倒壊で犠牲になった。次男悦司さん(69)は2人の遺体を自ら金沢市内の火葬場に運んだ。栄子さんは京都府の呉服屋の発注で、着物を織る仕事をしていた。悦司さんは「地震がなかったらまだ元気だった」としのぶ。才一さんは2年前まで大阪府で暮らしていた。子どもが独り立ちしたタイミングで地元に戻った。



虎間謙一さん(75)

自宅が倒壊して亡くなった。親戚からは「けんちゃん」と呼ばれていた。富山県内に住むおいの大川信幸さん(48)によると、温かい優しい人柄で、おいの誕生日には毎年祝い金を送っていた。「山歩きや素潜りを教えてくれた。集まりを楽しむにしていたのに」と涙ぐんだ。



中前賢一さん(77)は1年かけて塩作りを担う「浜土」として、珠洲市に40年以上伝わる揚げ浜式塩田を守ってきた。中前賢一さん(77)は1年かけて塩作りを担う「浜土」として、珠洲市に40年以上伝わる揚げ浜式塩田を守ってきた。

中前賢一さん(77)は1年かけて塩作りを担う「浜土」として、珠洲市に40年以上伝わる揚げ浜式塩田を守ってきた。中前賢一さん(77)は1年かけて塩作りを担う「浜土」として、珠洲市に40年以上伝わる揚げ浜式塩田を守ってきた。

能登町

自宅が被災した17日後の1月18日、家族が暮らす千葉県内で亡くなった。妹の中谷光子さん(73)によると、大学卒業後、関東の化粧品会社に定年まで勤めた。10年ほど前、両親の介護のためにリタイアした。いこの鶴岡啓子さん(70)は「もの静かだったけど、温厚で家族思いだった」としのんだ。



蔵やぶるさん(98)

能登町内の避難所で朝食の準備をのどに詰まらせ、病院で亡くなった。子育てをしながら家政婦や建設業などで働いていたという。同居していた長男の純男さん(69)は「元日は元気があった。のどが潤いたままだったのどで、食前に水を飲ませていれば」と悔やむ。



前田利一さん(87)

避難所で高熱を出して入院し、3月に肺炎で亡くなった。次男の建治さん(56)によると、性格は「寡黙で頑固者。こだわり抜いた稲作では、稲を天日干しにする昔ながらの『はき掛け』の手作業を『その方がおいしいから』と守り続けていたという。最期はかっくぐのいい体が10kg超えてしまったが『長生きしてくれた』と生きざまを尊ぶ。

ミカやプラレールなどの乗り物のおもちゃや、道路地図を読み込むのが大好き。人一倍正義感が強く、貴仁さんは「両親や友だち、先生にも気を使っすべな子だった」と悼む。

七尾市

能登町松波の自宅が倒壊し、亡くなった。松波中学校のクラスメートたちは「元気で、活発なタイプだった」と口をそろえる。授業ではいつも最初に手を挙げ、部活のソフトテニスにも打ち込んだ。体育祭などの学校行事では盛り上げ役。クラスメートだった女子生徒(14)は「クラスの中心だった」としのんだ。

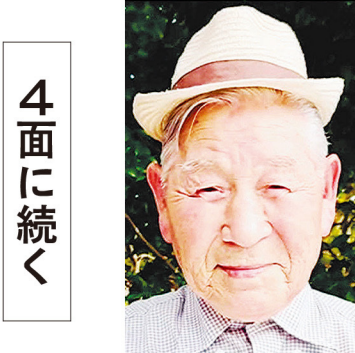


森脇治郎さん(13)

地震の影響で持病が悪化し、金沢市内の病院で1月28日に亡くなった。長男の浩幸さん(63)と2人暮らし。足は悪かったが家事は全てこなしていた。旅行好きでハワイなど海外をはじめ、県外の長女の住まいへ1人で行くこともあった。夏には孫とプールで遊ぶ約束をしており、浩幸さんは「楽しみに頑張っていたのに」と悔しがった。



4面に続く



4面に続く

【升本外広さん(74)】

輪島市内の1次避難所で4月24日、体調の異変を訴え、そのまま搬送先の病院で亡くなった。死因は長期の避難生活が影響したところによる肺塞栓症。周囲に気を配るまめな人柄で、前日も元気に料理を振る舞っていた。妻のキヨ子さん(78)は「本当に家族を大事にしてくれた。一緒に良かった」と感謝を口にしている。



【水落治さん(82)】

3月に避難所で倒れて亡くなった。「しんどい」と漏らしていた避難所暮らしから、みなし仮設住宅に移る直前だった。



次女の八木千恵さん(53)は「迅速に動いたつもりなのに間に合わなかった」と悔やみ「孫たちと会つたのをいつも楽しみにしていた」としのんだ。

【垣地英次さん(56)】

元日の地震による土砂崩れに巻き込まれて行方不明になり、およそ11カ月後に自宅近くで遺体が見つかった。互ふき職人として、地域でも頼られる働き者だった。捜索現場を何度も訪れて捜してきた兄の弘明さんは「家族の元に帰ってきてほしい」と話している。

【楠田香利さん(48) 長女 珠蘭さん(19)】

倒壊したビルに自宅兼店舗が押しつぶされ、亡くなった。がれきの下で次第に弱っていく2人。「目の前にいるのに何もできないうえに、気が狂いそうだった」と夫の健二さん(56)は振り返る。6月に以前暮らし川崎市の居酒屋を再開したが、悲しみが癒えることはない。「全員生きるか死ぬかにしてほしかった」。突然失った最愛の2人をおぼえない日はない。

【中橋光次さん(72)】

輪島市三井町で1人暮らししていたが、地震による土砂崩れに巻き込まれ犠牲になった。金沢で左官職人として働いていたが、定年後は実家に戻り、手入を欠かさずに家を守り続けていた。「なんで逃げなかったんや」と姉の園利子さん(80)。利子さんは避難生活の影響で体調を崩しているが、光次さんの遺影に触れるたび「また元気になる」と意を強くする。



【上平謙三さん(75)】

輪島朝市通り近くにある自宅の倒壊に巻き込まれ、亡くなった。自宅は火災で全焼。娘の刀祢千春さん(51)は「地域評判の美人できれいな好き」と話す。長年、夫と輪島塗の箸作りで生計を立てていた。



【江田孝子さん(68)】

家屋の倒壊に巻き込まれ、犠牲となった。石川県小松市に住む長女に、孫の誕生日を祝うメッセージを送った直後だった。長女は「何にでも一生懸命な人で、孫にも慕われていた。老後は小松と一緒に住んで恩返しするつもりだったのに」と声を震わせた。

【外節子さん(89) 次男 忠司さん(58)】

節子さんはプロ野球巨人と新間のクロスワードが好きだった。長男の武志さん(61)は「曲がったことが嫌いな人。自分の小さい頃はよく怒られたが、孫には優しくした」としのぶ。次男の忠司さんは大学時代にスカウトされ自衛隊に入隊。退官後は節子さんと同居していた。寡黙な人柄でお酒と珍味を楽しむ一方、読書家でもあった。

「何にでも一生懸命な人」「明るくざっくばらんな性格」



【芝原正人さん(51)】

輪島市鳳全町の自宅近くにあった神社の鳥居が倒れ、下敷きになって命を落とした。「俺が必ず面倒見るから」と、実家で1人で暮らしていた母より子さ



芝原正人さんの生前を振り返る姉の千春さん(左)と梶谷まゆみさん(右)

【小泉洋子さん(61)】

腎臓を患っていた過3回、透析を受けていた。元日は自宅にいて被災。1月3日に車で10時間近くかけて金沢市の病院まで移動して透析を受けた。心臓も悪化して3月16日に亡くなり、災害関連死と認定された。弟の英昭さん(58)は「明るくざっくばらんな性格で、何でも言い合えた。もったい長い間、楽しく2人で暮らしたかった」と声を落とした。

【崎田淳子さん(52)】

夫の真人さん(61)が住職を務める輪島市門前町江崎の応覚寺で、倒壊した寺の下敷きになり、亡くなった。別の部屋に

家族へ「頑張っているよ」

大間はる香さん(38) 金沢市 長女 優香さん(11) 同、長男 泰介さん(9) 同、次男 湊介さん(3) 同、祖父 中谷六男さん(88) 同、祖母 相母よしさん(89) 同、父 香さん(65) 同、母 淳子さん(66) 同、義姉 知佳子さん(29) 金沢市 珠洲市 仁江町のはる香さんの実家に集まっていた親戚で記念写真に納まる(右から) 優香さん、はる香さん、湊介さん、泰介さん

9人犠牲の大間さん一家ら

族12人のうち、9人が真山の土砂崩れに巻き込まれて亡くなった。仕事に向かうため、直前に家を出たはる香さんの夫、圭介さん(49)によると、はる香さんは保健師として働いてきた。懸命に子どもたちを育てていた。優香さんは得意ではないマラソン大会にも真剣に向き合い、努力を重ねて目標を達成する「頑張る家族」で、圭介さんは「家族思い」で、圭介さんの誕生日にお小遣いで買った服をプレゼントしてくれて、湊介ちゃんも「話がわかるようになってきて、かわい盛りだった」。

【出口正子さん(74) 長男 博文さん(49)】

自宅が土砂崩れに巻き込まれて犠牲になった。遺体の損傷が激しく、正子さんの夫で博文さんの父 祐三さんは2人の顔を見ずに見送った。「顔を見たら、それが頭に焼き付いてしまう気がした。だったら見ないで、いい思い出だけを記憶しておきたい。それで良かったのかは分からないけれど」と話す。



【大向はなさん(97) 娘の尾形智子さん(65)】

大向さんは避難生活中に新型コロナウイルスに感染して命を落とした。尾形さんは夫と2人で暮らし、いた自宅が全壊して柱の下敷きになった。大向さんはコロナに感染後、一度は持ち直したものの1月22日に亡くなった。娘の正恵さんは「妹も母が向こうにいれば寂しくないはず」と語った。

【稲垣孝子さん(46)】

消防団員だった稲垣さんは最初の揺れで母と祖母を自宅から外に避難させ、自分は出動に備えて着替えるため中に戻った。そこに2度目の揺れが来て、倒壊した自宅の下敷きになった。親戚の稲垣健英さんは「小さい時から責任感が強かった。頼まれたら断らない。地元の人材を落とした」と声を落とした。

【水上正子さん(88)】

1人暮らしをしていた自宅が全壊し、その下敷きになって命を失った。葉タバコの栽培やサザエ漁をするなど仕事熱心で、農作業にも精を出していた。実家に戻って一緒に下敷きになり、近所の住民に助け出された娘の濱川久子さんは「老後は母と暮らしが良かったが、恩返しできなかった」と寂しそうにつづやういた。



【大久保武雄さん(96)】

市内の特別養護老人ホームで被災し、転院先の金沢市内の病院で肺炎で亡くなった。道路舗装の現場監督として長年働き、寝たきりとなった妻(故人)の看病を約20年しながら、竹どんばや縄作りなどを地域の児童に教えた。長男の春知さん(67)は「通学の送り迎えなど、孫をよくかわいがってくれた。地震がなければ、100歳を迎えられたと思う」と悲しんだ。

【神崎美智子さん(67) いずれも孫の希美さん(43)】 金沢市、麻衣子さん(40) 東京都杉並区 希美さんと麻衣子さんは実家に帰省中、美智子さんとともに家屋の倒壊に巻き込まれ、犠牲になった。家族で正月にそろってのは久しぶりだった。希美さんはドラッグストアで働き、父の浩二さんは「店員という接客する仕事柄、明るい性格でみんなから好かれていた」と悼む。織維関係の会社に勤める麻衣子さんは、2023年6月に転職するまで都内のデパートで働いていたため、正月に帰省するのは十数年ぶりだった。母の智子さんは「(美智子さんは)孫が来るのを楽しみにしていた」と声を詰まらせた。

【渡邊秋美さん(65)】

自宅テレビを見ているときに揺れを感じ、避難しようとした。関に向かう途中で本震に襲われ、家屋の下敷きになった。夫の重光さんは「今でも行方不明者がいるのを見れば、出したいだけでもありがたい」と感謝した。

田中洋子さん(57) 田中正美さん(87) 【能登町】 西原三喜男さん(71) 高橋千代子さん(100) 安実富さん(94) 【七尾市】 石野精一さん(58) 中山弘幸さん(91) 【金沢市】 坂下千春さん(51) 東芳美さん(42) 浦直哉さん(29) 山口義雄さん(74) 【新潟市】 吉岡咲哉さん(11)

谷内田力蔵さん(83) 寺山良子さん(76) 則貞あき子さん(80) 広田咲子さん(93) 広田均さん(65) 谷内悦子さん(76) 石蔵恵美子さん(72) 倉指みち子さん(78) 西照子さん(80) 大広永世さん(55) 【穴水町】 高田美穂さん(34) 高田鈴善さん(10) 中島博さん(65) 中島博さん(67) 田中節子さん(82)

上谷吉男さん(76) 坂蓋繁義さん(97) 砂山芳孝さん(50) 天満透さん(79) 天満三子さん(75) 浜出照子さん(77) 平地乾治さん(72) 浅田三友さん(74) 奥亨子さん(60) 奥敏彦さん(64) 木谷伝一さん(87) 黒崎シゲ子さん(92) 宮下和栄さん(83) 安田賢一さん(89) 杉浦隆さん(67) 杉浦富美子さん(94) 寺山すみ子さん(76) 平井あきさん(87) 平井正孝さん(89)

曲田千恵子さん(63) 山口世津さん(76) 山口俊行さん(78) 小谷内末子さん(91) 狩野しげさん(94) 浦寿美恵さん(88) 浜岡俊子さん(90) 【珠洲市】 市町衆司さん(89) 大谷スイ子さん(75) 要ミネさん(90) 吉田満智子さん(79) 上谷好美さん(67) 塩井紀美子さん(64) 日爪すい子さん(89) 弘瀬直次さん(77) 松波すゑ子さん(89) 矢黒フミコさん(72) 安宅一男さん(69)

五里地敏夫さん(84) 田中優子さん(52) 鳥毛峰子さん(74) 山崎良治さん(87) 岡吉丸さん(86) 山谷薫さん(89) 出村芳雄さん(72) 成瀬政夫さん(74) 山口正一さん(73) 上野盛之さん(76) 向浜勲さん(89) 向浜節子さん(85) 表きよさん(97) 東山明彦さん(71) 曲田克也さん(63)

このほか石川県が能登半島地震の犠牲者として氏名を公表した方々。

【輪島市】 北山洋子さん(65) 下地みさのさん(89) 高はるみさん(93) 松井健さん(55) 大野とめさん(96) 柿本利子さん(88) 片山婦子さん(91) 河端敬子さん(74) 小山正子さん(81) 竹園波津枝さん(59) 古谷光雄さん(79) 宮本ちえ子さん(66) 八幡幸三さん(76) 山口好光さん(69)

遺族の同意を得られた犠牲者名を公表。氏名表記、年齢、住所は遺族の申告による。

北海道

凍える寒さの中救助を待つ人、家屋の下敷きとなり帰らぬ人となった家族を仮設住宅でとりこぼし人。復興のため、伝統工芸を再興させようと奮起する人。すべて報道で知りました。これからの微力ながら、北海道から応援しています。

札幌市北区、小野寺ひかる(32)

度重なる災害に胸がつぶれる思いです。災害に関連した病気などのことも人ごととは思えません。どうか心だけはお元気でいてください。そして一日も早い復興を速く北海道の地よりお祈りしております。空知管内新十津川町、女性(66)

元日の大地震、そしてようやく復興の兆しが見えてきたところでの豪雨災害。もし、自分だったらと考えると、とても能登の人たちにはいかないと思います。

どんどん寒くなる中、新聞やテレビで報道される状況に、体調を心配している者です。どうか、今日を生きてください。困り事をぜひ、発信してほしいです。遠くにいても、皆さまの状況の好転を願っています。

札幌市、齊藤聡子(54)

東北

復興は長い道のりです。心を一つに前進してください。困ったことがあれば声を上げてください。周りでサポートします。

仙台市太白区、無職、60代男性

頑張ってくださいなんて言えませんが、物資を送ることもできず、困がゆい思いをしました。聞けば道路もまだまだでこぼこ、水は出ているものの、以前の生活には程遠いとか。声高に不平不満を言わない人たちのため、早く元の生活に戻ることを政治家にも強く求めたいです。今年は平和で穏やかな年になるようお祈りしています。

渡島管内木古内町、女性(67)

もう1年になろうとしているのですね。冬は必ず春となる。能登の方々にとって本当の春がくることを北の地から祈っております。釧路管内厚岸町、男性(63)

仙台市青葉区、主婦、60代男性

突然の被災で大変な日々をお過ごしのことと思います。私も東日本大震災で被災しました。両親をはじめ、多くの親族も亡くしました。それでも日は昇り、光を与えてくれました。決して諦めないでください。

仙台市青葉区、主婦、60代女性

未来の復興を信じて考え続けられ、能登の方々の穏やかで落ち着いたような日々はいつか必ず来ると信じています。

仙台市青葉区、会社員、20代男性

(特に子どもたちへ)つらい思いや怖い思いをしているのなら、できる限りでいいので、周りの大人に話してみてください。決して一人で抱え込まないでください。

仙台市青葉区、学生、20代女性

無理をして頑張り過ぎている方々が多いと思います。寒くなってきたのでとにかく体調を崩したり、疲れたと思ったら、休んでください。宮城県多賀城市、パート従業員、50代女性

とにかく長い間になります。根気強く一つ一つコツコツとクリアしていきたいでしょう。無理して一気に何とかしようとしても、後が続きません。

宮城県加美町、会社員、50代男性

どうかお体を大切にしてください。助かった命を大切にしてください。いつも皆さまのことを思っています。

仙台市太白区、パート従業員、60代女性



東日本大震災から1年、宮城県気仙沼市の川岸で震災犠牲者の冥福を祈り手をつなぐ人々(2012年3月11日午前5時31分)

私も東日本大震災で家を流されました。焦らず今できることを一つずつこなしければ、時間はかかりますが何とかなりますよ。

仙台市若林区、パート従業員、50代女性

能登半島は学生時代に旅行して、大好きになった地です。祈っています。

仙台市若林区、団体職員、20代女性

当たり前の生活が早く戻ることを祈ります。一人で無理をせずに、みんなで力を合わせて頑張りましょう。

仙台市太白区、無職、70代男性

元日の能登半島地震に加え、9月には記録的豪雨もあり、心配しています。地震と豪雨で二重に被災された方もいるかもしれません。心労を考えると、簡単に「頑張りましょう」とは言えませんが、東日本大震災の被災地でも一から復興した所があります。今は大変だと思いますが、必ず復興・復興できると信じています。

宮城県白石市、パート従業員、30代男性

生活がある程度落ち着いてくると、ずっと疲れが出てくることがあります。時には頑張りすぎても大事だと思います。何もできませんが、東北から能登半島の被災者の方々の身を案じています。

仙台市太白区、会社員、40代男性

時間はかかりますが、必ず元気になる未来は来ます。遠慮なく「助けて！手伝って！」と声を上げてくださいいね。これから寒くなります。体調にお気を付けてください。

宮城県石巻市、自営業、60代女性

水浸しになった仮設住宅を見て、お見舞いの言葉が見つからない。頑張れという言葉は必要ない。生きている人はみんな頑張っているのだから。

仙台市宮城野区、パート従業員、60代女性

体と心を大切に。頑張れる人はやろう。つらい人は助けを求めよう。至る所に新天地があるので、復興を背負わず、なるべく生き生きしましょう。

仙台市青葉区、会社員、50代男性

《河北新報》

東海

小学1年生のときに伊勢湾台風を経験しました。まだ幼かったのですが、今となってはどのように過ごしたか覚えていません。日にちはかかるとは思いますが、何とか無事に過ごして欲しいです。

愛知県岩倉市、富田由美子(72)

あの日、妻と金沢のホテルで被災しました。お正月で一家だんらんの最中だった方も多くみえると思います。どうか無理をせずに一歩ずつ前に進んでください。

愛知県岡崎市、無職、生田勝彦(79)

あつという間の1年でしたね。元日の揺れ、忘れもしません。怖かった。眠れぬ日を何日も過ごされたのでしょうか。秋の豪雨、どうしてこんなにも痛めつけたのでしょうか。以前、わが家も東海豪雨に見舞われ床下の被害。雨の怖さ水の恐怖、忘れません。これからの寒さに体調に気をつけてお過ごしください。

名古屋市中熱田区、アルバイト、楠桂子(67)

三重県四日市市、パート、丹羽裕子(66)

能登半島には何度も観光で行きました。ランプの宿、道路沿いの一軒の食堂で車がいなくなるまで送ってくれた人、今でも鮮明に覚えています。必ずもう一度行きます。悪いことの後には必ず良いことがあります。復興を信じ、心から応援しています。

三重県伊勢市、日置三男(80)

春は来るから

能登半島地震から1日で1年。昨年9月には記録的豪雨にも見舞われ、被災者の窮状は続いています。こうしたなか、友好紙6社と本紙に多くの被災地へのメッセージが寄せられました。阪神大震災や東日本大震災、西日本豪雨などを経験した人たちのメッセージには、被災地の一日も早い復旧復興を願う熱い思いがあふれています。その一部を紹介します。



中越地震ではたくさんのご支援をいただき、中越の街は復興しました。支援の手が届かず絶望している方もいると思いますが、能登地方も必ず復興します。たくさん頑張っている皆さんへ、「心はひとつ」という言葉を送ります。一緒に前へ進みましょう！

五泉市、介護士、白井智恵(37)

まだまだ先が見えないことが多いと思いますが、でも、今日まで生きていてくれてありがとうございます。苦しいときは逃げていい、悲しいときは泣いていいと思います。2025年こそ少しでも良いことがありますように。

田上町、看護師、高橋智子(64)

少しでも復興の助けとなるよう、被災地からの物品の購入を通じて、引き続き今後とも貢献していきたいです。

阿賀野市、団体職員、山際雅紀(48)



仮設住宅前で地震発生時刻に合わせて、旧山古志村に向かって黙とうする元村民ら＝2005年10月23日午後5時56分、新潟県長岡市陽光台で

中越地震から20年がたちました。あのときの怖さは忘れられませんが、地震直後から多くの支援が届き、感激しました。一番大事なのは、お互いさまの気持ちだと思います。隣近所助け合って乗り越えたと思います。明るい未来を考え、無理をしないで進みましょう。

十日町市、農業、樋口紀行(74)

もし経済的余裕があるのなら、休めるだけ休んでください。先のことだけ考えているとつらくなります。

新潟市西区、嘱託職員、大川聡(52)

これからは行政と国に希望を伝え、一日でも早く支援をお願いすることに尽きます。生きる希望を捨てないで生きていってください。応援しております。

新発田市、無職、高橋勝雄(83)

新発田でも私が住む近くで豪雨災害があり、知人も被害に遭いました。被災地にどれだけ思いを寄せても足りません。今は頑張れとは言いません。いろんなことに頼ってください。助けます。力になりたい。声を上げてほしいです。

村上市、会社員、高橋久美(57)

中学校教員として子どもたちと能登地方の復興に向けた募金活動を行いました。海の近くで暮らす人も多く、「人ごとは思えない」という声も聞かれます。できることはわずかですが、いつでも皆さまのことを思っています。かつて訪れた能登の美しい風景が思い出として心に刻まれています。いつかまた家族を連れて訪れた。復興は道半ばだと思いますが、一歩ずつ着実に歩を進んでいます。顔を上げ、共に進んでいきましょう。

新発田市、中学校教員、六井啓一郎(31)

《新潟日報》



冬を越えれば

能登へ 各地からメッセージ

阪神

被災後1年を迎えます能登半島地震(豪雨)被災者の皆さんにお見舞い申し上げます。1月17日には阪神・淡路大震災から30年を迎えます。兵庫から「恩返し」ボランティアが継続して支援に入っています。引き続き厳しい状況が続きますが、共に被災した者同士頑張りましょう。

私も病気で車いすユーザーでもあります。が、闘病中の方や医療的ケア等が必要な方は、また違った不安も大きかったと思います。病気や障害がある方も含めたすべての方の不安などの気持ちが、少しでもやわらぐことを願っています。

神戸からあの日の恩返しとして、これからもボランティアに向かいます！ 共に前へと進みましょう！

兵庫県高砂市、大学院生、稲沢通樹(23)



地震に豪雨と災害が重なり、1年たつても厳しい状況が続いていると思います。阪神・淡路大震災を経験した神戸から、応援を続けていきます。フットー！

元日にまさかの地震。追い打ちをかける豪雨。夢も光も見えない時がつづいてると案じます。「暗闇にこそ夢は生まれる。眠りの中で明日は青つ」と書かれた谷川俊太郎さんの詩に励まされてきました。能登の皆さんの心に、新しい夢が生まれますように。新しい明日が育ちますように。

西宮市、介護支援専門員、栗野真造(65)



阪神大震災から1年、犠牲者を悼んで日本列島(手前左が九州)をかたどったろうそくに点灯、黙とうする人たち=1996年1月16日、兵庫県伊丹市昆陽池で

被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。地震や災害が起きると、当たり前の日常がどんなに幸せなことなんだと気づく。一日でも早い復興を心より願っています。がんばれ能登。

京都府京丹後市、「琴引浜鳴き砂文化館」館長、田茂井秀明(66)

以前から能登に行きたい行きたいとずっと思っていました。コロナ前の2019年に初めて夫婦で車で行きました。輪島の朝市で魚を買い、ホットスポットを見学し、神戸までの長距離を5時間ほどかけて帰りました。一日も早い復興を祈っています。そして、2回目の訪問を楽しみにしています。

神戸市西区、西信天(77)

悩んだ分だけ大きく成長できる。苦難は自身を鍛える最高の宝です。負けじ魂を進みましょう！ 能登を忘れません！ 能登の皆さんを応援しています。春は必ず来ます。

同級生のあなたへ。豪雨災害、ようやく連絡が取れた時、生きてくれてよかったと泣けたよ。11月、また揺れた。被害はなくても揺れるというだけで怖い。フラッシュバック大丈夫？ もうすぐ1年、その日を迎えるのは重たい。だけど、気持ちちは前を向いて笑顔で過ごそう！ いつも、いつも思っているからね。

西宮市、会社役員、神田郁美(67)

東海

厳しい冬をどうにか健康で元気に乗り越えて、春を呼び込んでください。私が体験した伊勢湾台風も周りのおかげで、人も街も息を吹き返しました。

愛知に住んで40年近くたちますが、金沢出身です。若いころはよく能登方面の海で泳いだものです。和倉温泉や輪島の朝市があんなことになって、心が痛みます。わずかですが、ことあるごとに寄附させていただいてあります。気にかけている人はたくさんいます。どうか諦めないで私たちの故郷を取り戻してください。いつも応援しています。

愛知県豊橋市、主婦、松尾千枝(73)

元日で皆が集まる。急に突然の地震でさぞかし大変だったろうと思います。嫁の実家が金沢で津波が来るかもしれない、早く逃げてと連絡し続けたあの日思い出して、何もできない無力感を感じました。今もその地を離れず頑張っている方々の方々にどうか良い年を迎えられますよう遠くの地からお祈りしております。

岐阜県可児市、主婦、長瀬由美子(67)

1995年の阪神淡路大震災では、10日間水道工事の応援に行きました。今回は年を取りすぎて行くことができませんでした。状況は目に浮かびます。1年がたち、まだまだ復興は進まず、大変な状況かと思いますが頑張ってください。

北九州市、水道工事業、城山(88)

中国

11月に珠洲市と輪島市でのボランティアに参加しました。災害から1年たった今も復旧支援の人手を必要としている現状を知りました。石川の現状をより多くの人に知ってもらえるように私たちができることをしていきます！一緒に乗り越えましょう。

広島市西区、高校生、清田結愛(18)

2018年7月の西日本豪雨で母と叔母を亡くし、1人になりました。被災者にしか分からないつらさがあります。ひたすら目の前のことに全力で取り組み、気持ちを整え立てさせてきました。寒い冬が来ますが、どうか体には気をつけて暮らしてください。

広島県坂町、自営業、水尻忠道(62)

6年半前の西日本豪雨では消防団員として救助活動に携わり、今は防災士として地域の避難意識向上に取り組んでいます。能登の復旧復興に向けた国の対応が鈍く、腹立たしいです。生活再建には時間がかかりますが、日はまた昇ります。どうか負けないで。

広島県熊野町、会社員、丸井泰昭(59)

九州

6月に娘と2人で金沢市を旅行しました。輪島は復興が進んでいないと聞き、足が延ばせる状況になったら行くこと話していたところ、さらに大雨災害に遭われて胸を痛めています。不便や切れない思いなど想像も及ばないことが日々あると思います。福岡から心の回復と復興をお祈りしています。

福岡県那珂川市、嘱託職員、伊藤智子(46)

私たちは小中学校の運動会で歌ってきた「若い力」の歌に気持ちを奮い立たせられてきましたが、この歌が1947年の「石川国体」の時の歌と初めて知りました。能登の人たちに感謝やお礼を込めてお返ししたいです。

福岡県福岡市、パート、白石文紀(73)

元日に思いがけない災害が発生し、復興に向けて取り組みかけたところでまたもや水害に遭われた能登の方々の苦しみを思う時、胸が痛みます。今が踏ん張りどころです。前をしっかりと見据えて頑張ってください。日本のみんなが応援しています。

那珂川市、会社員、川原道教(69)

九州

復旧が進まない中、ありふれた言葉で申し訳ありませんが、健康に気をつけて前向きに頑張ってください。熊本地震では身内が被災し生活ができなくなりましたが、一念発起して今頑張っています。みなさんも未来を見つめて頑張ってください。

福岡県朝倉市、教員、男性(59)

小さい頃に熊本地震を経験して自然災害の怖さなどについて知っています。今回の能登半島地震ではとても苦労されたと思います。石川には以前行ったことがあり、とても観光資源が豊かだいい場所だと思っています。また機会があれば伺いたいと思っています。遠くからにはなりますが応援しています。

福岡県大牟田市、高校生、男性(18)



熊本地震から1年、犠牲者を追悼式後に風船を放つ子どもたち=2017年4月15日、熊本県西原村で

福岡も2005年の福岡沖地震で甚大な被害を受けました。日本に住んでいる限り、どこかの地域でもいつ起こるかわからない災害を受け入れなければならないという運命です。大変な状況の中とは思いますが、前を向いて頑張っていたきたいと思っています。

福岡県糸島市、無職、芦刈義二(70)

能登地震の復興途中で豪雨災害に見舞われて、何で？何で？と思っています。ずっとなんとなく忘れずに応援しています。頑張ってください。くれぐれもお体を大切にしてください。

名古屋市長区、無職、中村博子(73)

元日の地震、9月の豪雨、本当に神も仏もないのかと身体が震えました。地元の方はそれでも能登が育った所がよいと頑張っています。一日も早く皆さんに笑顔が見られることを願っています。

名古屋市中区、主婦、山田節子(80)

私の父は能登の出身で、親戚も被災し、生家も大きなダメージを受けました。子供のころのきれいな海、のどかな里山、あたたかい人々が思い出されます。必ず復活できると信じています。応援しています。がんばれ！

名古屋市中区、会社員、竹田理恵(51)

若いころ、友人と能登半島を旅しました。夏でした。海辺でウニを拾い上げて、痛い思いで割って口にしたら、体に海が広がりました。能登の自然と生活を取り戻してください。心から応援しています。

名古屋守山区、無職、青川純一(71)

2019年に石川県を訪れましたが、輪島市へは行けませんでした。復興した輪島市で輪島塗や朝市、海の幸を堪能できる日を心待ちにしています。寒い季節となりますが、無理されませんよう、くれぐれもご自愛ください。

佐賀県唐津市、主婦(66)

〈西日本新聞〉